

T14b 「すざく」による電波銀河 PKS2356-61 の X 線起源の特定

下田優弥、田代信、矢治裕一、瀬田裕美（埼玉大）、磯部直樹（京都大）、洪秀徴（日大）

近年の衛星による X 線観測で、電波ローブと銀河団ガスとの相互作用が発見されている。これは、さまざまな説がある銀河団ガスの加熱問題を検討するうえでとても重要であり、広く研究がなされている。これらの議論を進めるためには、天体からの X 線源を特定することが必要である。特に銀河団中の銀河からの放射は、他の天体からの洩れ込が多いため、その特定が困難である。今回我々は、電波銀河 PKS2356-61 の解析結果について報告する。この銀河の AGN は、電波観測で活動性が高く、差し渡し 6.3 分角に及び電波ローブを持つ。また、ジェットと同程度の大きさしかない小規模の銀河群が、可視光観測で報告されている。小規模の銀河群と比較して大きなジェットを持つので、ジェットによる銀河ガスの加熱を調べる上で理想的な系である。また、「あすか」による観測で広がった X 線源が検出されたが、その起源については、ローブ由来か銀河群ガス由来なのか区別できなかった（洪、2005 年秋季年会ほか）。そこで我々は、より正確に議論を進めるため、高感度の検出器を持つ「すざく」による観測を行った。その結果、ローブを避けるように広がった X 線源を確認した。そのスペクトルは熱的プラズマで説明でき、得られた温度は銀河群の規模から推定されるものと一致した。